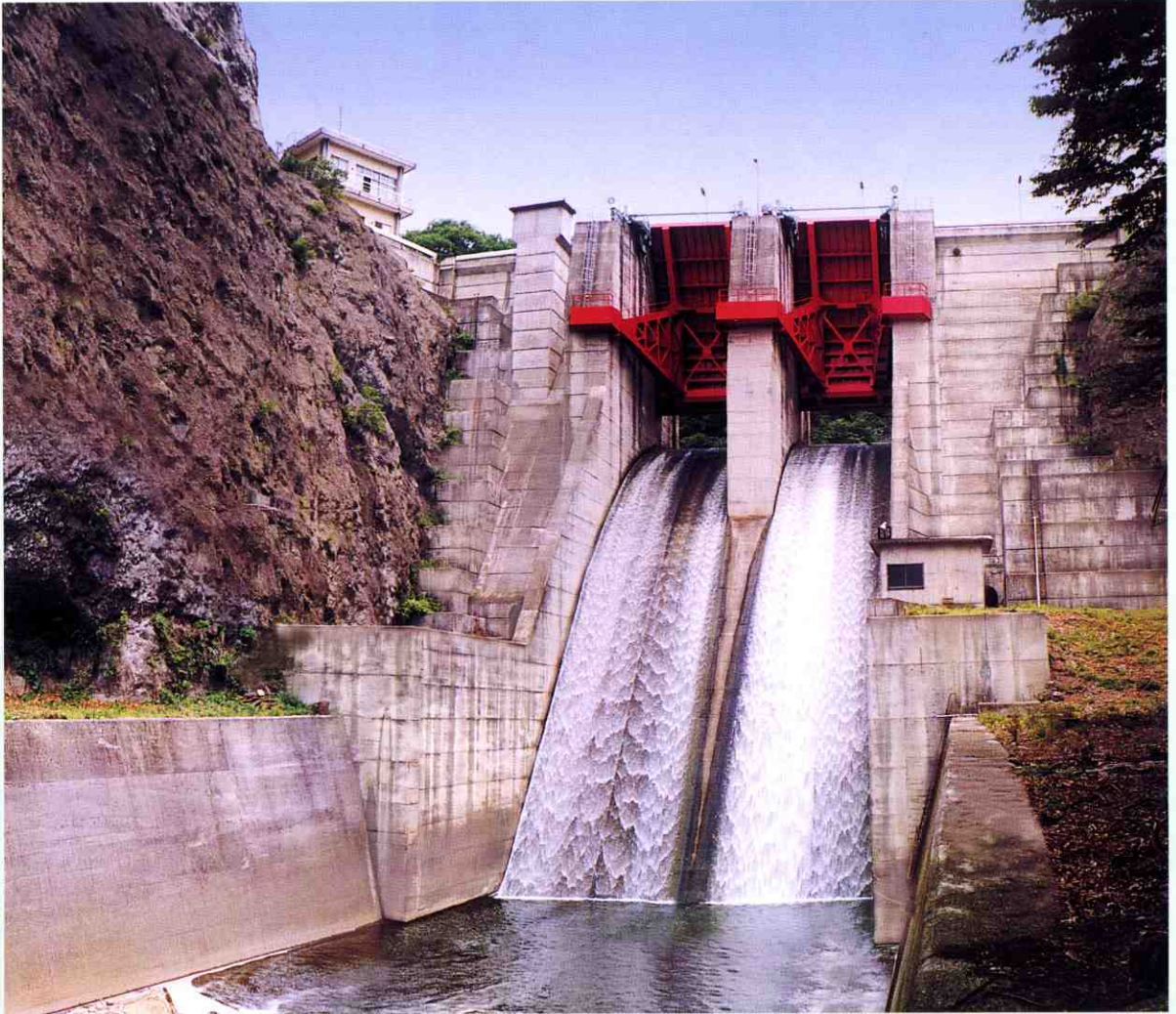


# 湯川ダム



長野県佐久建設事務所

# 1.ダムの概要

湯川は、その水源を浅間山(2,568m)から鼻曲山付近の山嶺に発し、さらに、矢ヶ崎山から和美峠に至る高原の水を集めながら軽井沢町、御代田町の浅間山麓を南西に流れ佐久市落合地籍で千曲川に合流する流路延長36km、流域面積177km<sup>2</sup>の一級河川です。

湯川流域の降雨量は、年間900mm程度と少ないですが、台風による災害が多く、昭和24年のキテイ台風、昭和34年の台風7号の際には、地域一帯に大きな被害を与えました。

このため抜本的な治水対策と併せて下流既得取水の安定化を目的として、御代田町に治水ダムである湯川ダムを昭和53年度完成させ、その効果を発揮しています。

# 2.ダムの目的

## (1) 洪水から地域を守ります。

洪水時に流水の一部を一時的にダムにためて、ダム下流に流れる水の量を減少させ、沿岸地域を水害から守ります。

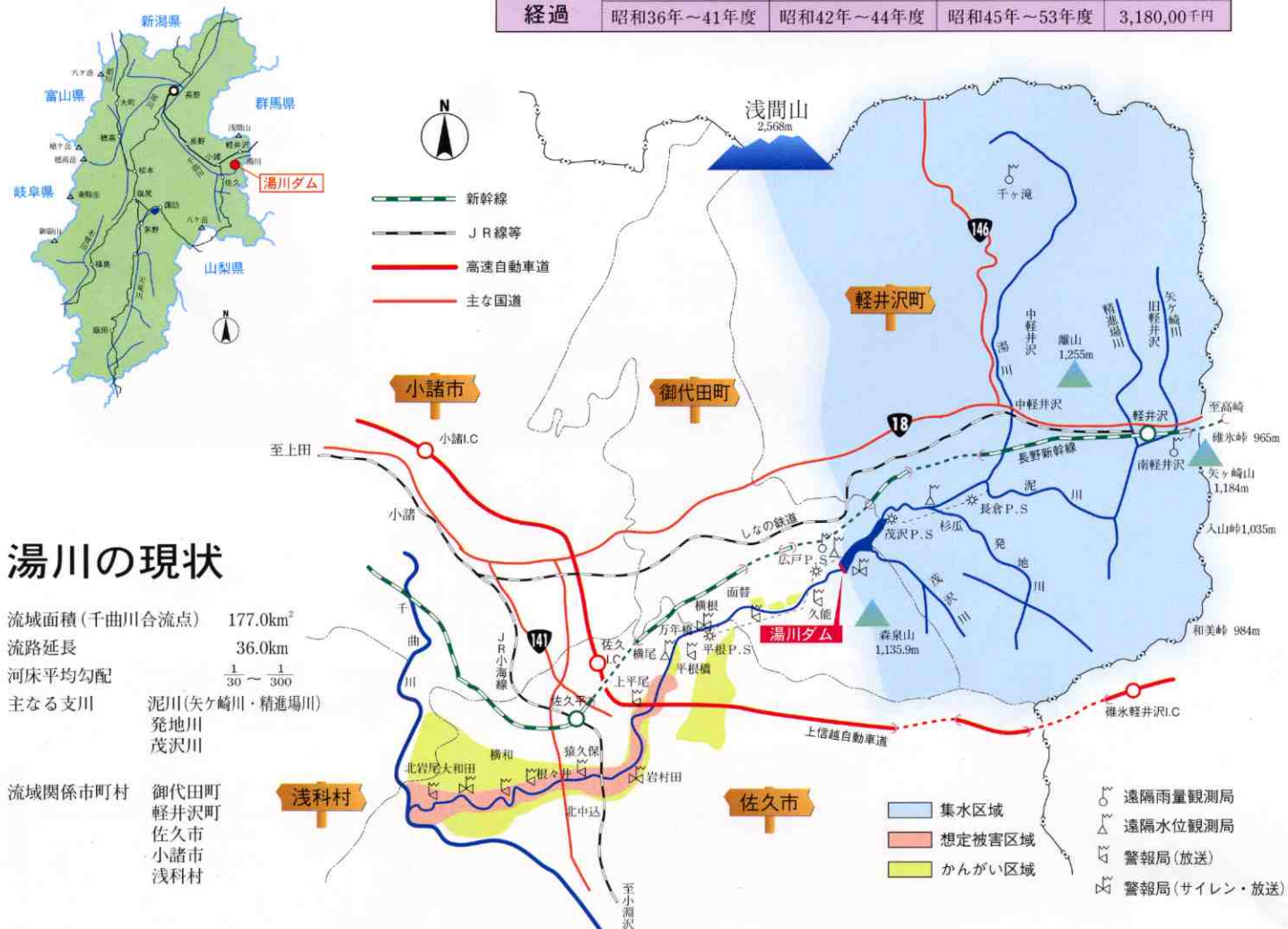
ダム地点において、80年に一度発生すると想定した計画高水流量毎秒610m<sup>3</sup>のうち毎秒190m<sup>3</sup>をダムに溜め込み、毎秒420m<sup>3</sup>に減少させます。

## (2) 川にうるおいをもたらします。

下流既得取水を安定化し、豊かな潤いのある河川環境を維持します。

## 湯川ダム概要図

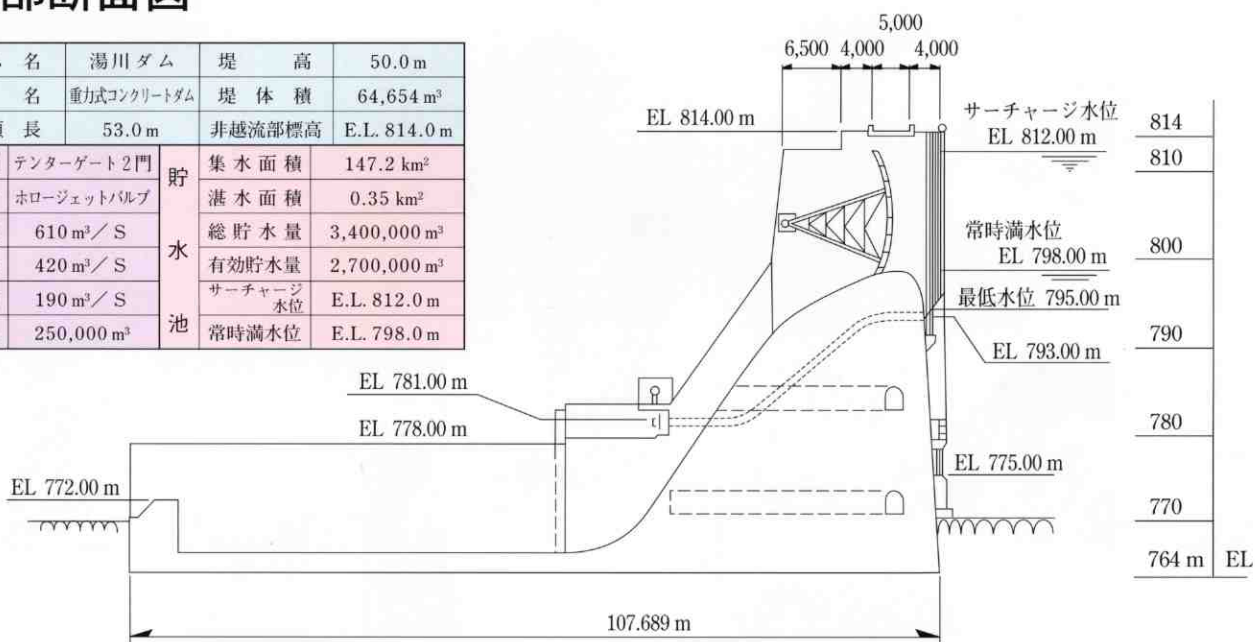
建設の経過	予備調査	実施調査	建設	総事業費
	昭和36年～41年度	昭和42年～44年度	昭和45年～53年度	3,180,00千円





### 越流部断面図

ダム諸元	ダム名	湯川ダム	堤高	50.0 m	
	型名	重力式コンクリートダム	堤体積	64,654 m <sup>3</sup>	
	堤頂長	53.0 m	非越流部標高	E.L. 814.0 m	
洪水調節計画	堤頂水門	テンターゲート2門	貯水池	集水面積	147.2 km <sup>2</sup>
	利水放流管	ホロージェットノズル		湛水面積	0.35 km <sup>2</sup>
	計画洪水量	610 m <sup>3</sup> /S		総貯水量	3,400,000 m <sup>3</sup>
	計画放流量	420 m <sup>3</sup> /S		有効貯水量	2,700,000 m <sup>3</sup>
	調節流量	190 m <sup>3</sup> /S		サーチャージ水位	E.L. 812.0 m
	不特定容量	250,000 m <sup>3</sup>		常時満水位	E.L. 798.0 m



### ダムのはたらき

#### 洪水のとき

ダムがなかったら

きゃー!!  
こわい

ダムがあったら

安心!  
安心!!

#### 渇水のとき

ダムがなかったら

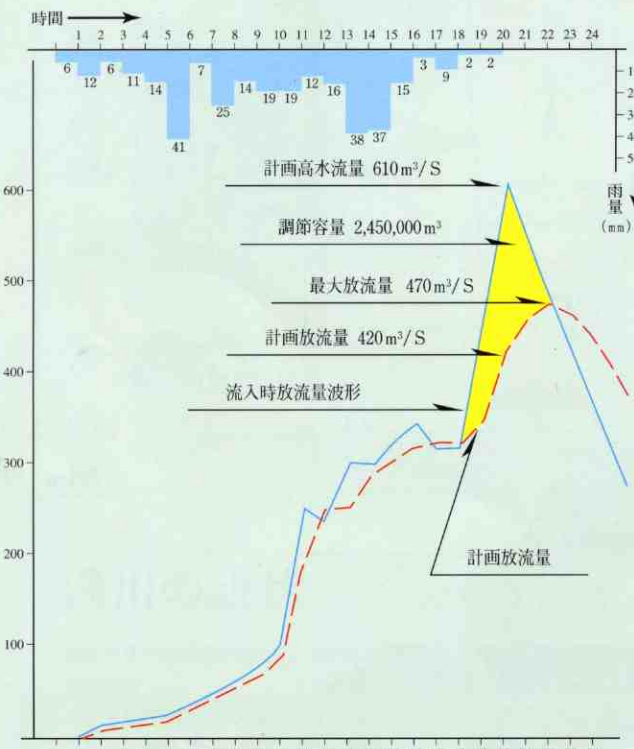
さあ!!  
たいへん

ダムがあったら

かいてき  
かいてき



### 洪水調整計画



### 貯水池容量配分図

